

# 平成 28 年度 第 2 回足立区経済活性化会議

## 会議録要旨

平成 29 年 3 月 15 日（水）  
足立区役所 中央館 8 階 特別会議室

(開催概要)

会 議 名	平成28年度 第2回 足立区経済活性化会議			
開催年月日	平成29年3月15日(水)			
開催場所	足立区役所 中央館 8階特別会議室			
開催時間	午後3時から午後5時まで			
出欠状況	委員現在数 17名 出席委員数 16名 欠席委員数 1名			
出席委員	中根 雅夫	阿高 松男	岡田 ヒロミ	福田 友子
	入江 洋介	宇佐美 一彦	岡部 克己	小沢 頼孝
	小早川 真樹	近藤 勝	鈴木 健文	鈴木 又右衛門
	瀧野 静江	なかだ えり	本山 功	渡井 良昌
事務局	<p>(出席職員)</p> <p>石居産業経済部長、島田産業政策課長、倉本就労支援課長、 依田産業振興課長、山崎中小企業支援課長、 日比谷足立区勤労福祉サービスセンター事務局長、 茂木足立区観光交流協会事務局長</p> <p>(事務局)</p> <p>産業経済部産業政策課 経済活性化計画調整担当係 池田、鈴木 株式会社富士通総研 高橋、松田</p>			
会議次第	別紙のとおり			
会議に付した議題	<p>1 足立区地域経済活性化基本計画改訂に係る報告事項</p> <p>(1) コンサルティング業務委託事業者の特定について</p> <p>2 審議事項</p> <p>(1) 今後の進め方について</p> <p>(2) 平成29年度目標値について</p> <p>3 検討事項</p> <p>(1) 次期 足立区地域経済活性化基本計画における活性化策について</p> <p>4 報告事項</p> <p>(1) 平成28年度「足立ブランド企業」の認定について</p>			

(会議録要旨)

### 島田産業政策課長

皆さま、本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。定刻前ではございますが、出席予定の方がすべてお揃いになりましたので、第2回経済活性化会議を始めさせていただきます。本日の司会を担当させていただきます、産業政策課長の島田と申します。本日の会議は公開となっておりますので、傍聴席を設けさせていただいております。また、区政情報課にて、本日の委員名簿や会議資料等を公開させていただきます。議事録作成のため、会議を録音させていただいておりますのでご了承ください。

本日は17名の委員うち、16名が出席されています。規定の委員数に達しておりますので、会議は成立しています。

それでは、中根会長、ご挨拶をお願いします。

### 中根会長

皆さまこんにちは。国士舘大学の中根と申します。前回の会議では、主に協創という足立区のキーワードについて議論がなされたかと思えます。

私から少しお話させていただくと、昨今、企業社会においてはレジリエンスというコンセプトが注目を浴びています。日本語では「しなやかな回復力」となりますが、国家レベルでも国家強靱化基本計画といったような、BCP等の事業継承計画と類似する用語も挙がってきております。そして個々の企業を見ますと、このレジリエンスという概念は、強い風に吹かれても回復するというイメージで捉えられているようですが、問題に直面した時に乗り越え、さらに飛躍するということがレジリエンスという概念の本来の重要な意味であると思えます。そして私の行った企業の実態調査結果から見ると、楽観主義や強い意志力があると、レジリエンスが強いということも分かっています。それでは皆さま、今日は活発なご意見・ご議論をよろしくをお願いします。

### 島田産業政策課長

ありがとうございました。会に入る前に、前回ご出席いただけなかった4名の方から自己紹介をしていただければと思います。

(岡部委員、近藤委員、鈴木又右衛門委員、本山委員より自己紹介)

### 島田産業政策課長

ありがとうございました。

お手元の配布資料を確認させていただきます。

(配布資料の確認)

このあとの議事進行を中根会長にお願いしたいと思います。

## (議事)

### 中根会長

本日は計画改訂に関する報告事項と審議事項が2点、検討事項が1点あります。検討事項に十分な時間を割きたいと考えております。まず、次第1にあります報告事項に関して、事務局より説明をお願いします。

### 島田産業政策課長

資料1をご覧ください。地域経済活性化基本計画のコンサルティング業務委託事業者を公募型プロポーザルによって株式会社富士通総研に特定しましたことをご報告いたします。

### 富士通総研

只今ご紹介にあずかりました、富士通総研高橋と申します。現在、港区や世田谷区を中心に産業振興に関するリサーチ、プランニングをさせていただいております。また昨今の地方創生の関係で事業化コーディネート等もやっております。この度足立区とご縁がありまして、ご支援させていただくこととなりました。どうぞよろしく申し上げます。

### 島田産業政策課長

提案のポイントとしては記載にあります通り、区内での効果的な資金循環による産業振興、区民生活や区内産業等の観点から計画を策定、基本構想に掲げる協創の実現に向けた産業界、大学、金融機関、区等が連携するためのモデルを構築する等が提案されております。また審査の結果も次ページに記載させていただいております。

### 中根会長

委員の皆さまからご意見ありますでしょうか。なければ次に審議事項に移りたいと思います。

### 島田産業政策課長

資料2をご覧ください。今後の進め方として、スケジュールをお示ししております。今回に次いで6月にもう一度全体会を開き、次いで施策案の審議等を行いつつ、10月にはパブリックコメントに関する審議を行い、平成30年1月には次期計画案を審議したものを区長に答申するという流れとなっております。

事業者アンケート調査につきましては、資料3と資料4の2種類がございますが、サンプル数は合計で3,000を予定しています。区民アンケート調査も実施予定であり、サンプル数は2,000を予定しています。実施時期は3月の中旬から4月の下旬とし、まとめていく予定となっております。

次いで、アンケートとは別に事業者や関係団体等への意見聴取を予定しております。区内事業者10社程度、関係団体5団体、有識者5名程度の予定です。そして各種統計データや関連する他計画の分析等を行う予定にしています。最後に次期計画案の作成ということで、骨子案の作成や施策案及び次期計画素案の作成の支援をしていただく予定となっております。

### 中根会長

第1回でも話がありましたが、アンケート等による実態調査が必要ということで、事務局でそうしたものに組みつつ、計画を完成させていく、という説明でした。この点について、何か

ご意見のある方いらっしゃいますでしょうか。なければ、次に審議事項の2について説明願います。

### 島田産業政策課長

現行の地域経済活性化基本計画の計画期間は平成28年度までとなっておりますので、このページでは、新たに平成29年度の指標を設定しております。指標数は全体で40指標あります。設定状況としては、平成28年度目標からの上方修正が16指標、下方修正が12指標、変更なしが12指標となります。

まず施策群1の施策1に産学公連携促進事業がございます。区内企業と大学等研究機関との交流・連携を促進し、新製品・新技術開発を進めることが目的となっておりますが、産学連携交流事業の参加者は28年度で250人となっており、これまでの推移を勘案し、29年度は400人としています。また施策群2の施策1にあります起業家育成事業の起業家支援受講者数はこれまで70人程度で推移していましたが、今年度は増加が予想されますので、来年度は90人を指標としています。またニュービジネス支援事業の創業プランコンテストコースの採択者の区内定着率について、28年度は100%ですが、今年度はやや下方修正しております。次いで8頁のあだち若者サポートステーション事業でございます。「あだち若者サポートステーション」就労等の進路決定者数と、「セーフティネットあだち」社会的自立につながるステップアップ者数が指標となっております。ここでは比較的自ら就労される方も多く、年々数値が下がってきていることもあるため、来年度は200人、55人とそれぞれ下方修正しております。説明は以上となります。

### 中根会長

平成29年度の目標値についてご説明いただきました。何かご意見ありますでしょうか。なければ次の説明をお願いします。

### 島田産業政策課長

資料6をご覧ください。次期計画における活性化策について記載しております。現行の計画では、リーマンショックによる経済危機や、千住地域への大学の集積等の変化を踏まえ、当区の新たな活路を見出す計画として策定されました。また今回、平成29年2月の月例経済報告では、景気の一部改善の遅れもありますが、緩やかな回復基調が続いているとされています。そして資料7と資料8をご覧ください。今日の日本を取り巻く社会の状況と市民生活の変化について記載しています。また地域課題としては、今後想定されるものとして、上段の右部分に記載しております。こうした変化のなかで、足立区の区民生活、区内産業、まちについて、現状を下段に記載しております。例えば商店街数でみると、83の商店街がありますが、やはり数は減っており、大きな商業施設等が主流となってきていることもあります。こうした変化を踏まえ、右に具体的な検討テーマを記載しています。この資料を見つつ、皆さまにご議論いただければと思います。

### 中根会長

ご説明にあった通り、足立区には地域経済の発展に向けた方針があるわけですが、今後どのようにしていくことが良いのかを検討していきたいと思っております。資料7を参考にご意見いただけますでしょうか。検討テーマのみではなく、皆さまのお立場からのご意見でも結構です。

## 本山委員

私はロボット、IoT、AIに近い分野となりますが、昨日、静岡県藤枝市のICTコンソーシアムを視察してきました。そこでは自治体と企業が連携して地域のIT化を目指すというテーマで議論がされていました。ロボット、IoT、AIといったところでピンと来る人が足立区の産業の方で、どれほどいるのか、我々もどうしようかと考えています。産業を作る場合は、中小企業と自治体の連携が大事なので、産学官連携の取り組みが必要だと思います。

## 中根会長

昨今IoTはどこでも取り上げられていますが、すぐに中小企業等でIoTを利活用していくことは難しいかもしれません。この活性化会議のメインテーマである連携、自治体等との連携をどう進めていくかが大事だと思います。

## 瀧野委員

私たち消費者友の会は、消費者に関すること、それに繋がっている商店街の方達の動き、これに対して何ができるかを考えています。

商店街を実際に歩いてみて、何か得るものがあれば、これから動いていきたいと思っています。高齢化社会になっていくので、そういったことを意識して活動していきたいです。

困っている中でも、一生懸命活動している商店街もあります。それを見定めて育てていく必要があると思います。

## 中根会長

商店街は昔、社会的機能があると言われていました。しかし現在は、後継者問題等を含め多くの課題が見られるわけですが、この経済活性化会議でも取り上げていく必要のあるポイントだと思います。

## 鈴木健文委員

私はタクシー業界の労働組合を通じて産業の発展について協議をしています。初乗り410円のタクシーもお客様の囲い込みということで取り組んでいます。しかし、労働者の立場で言うと、収入が落ちてしまうのではないかと懸念しています。三段階に分けてアンケート調査等をして動向を見極めているところです。

今、ライドシェアという新しい形態のサービスが出てきて、タクシー業界も色々と危ぶまれている状況です。そのような中で、産業の発展をどうしていくか考えています。

## 中根会長

タクシー業界は初乗り410円に取り組んでいますが、必ずしもその恩恵を受けていないと聞いています。

私の大学のOBで、TIME24という駐車場ビジネスの創業者がおりますが、カーシェア等に取り組んでいると聞きました。モノをシェアするという考え方を筆頭に、新たな社会の動向も捉えていく必要があると思います。

## 小早川委員

私の会社は製造業で印刷と製本をやっておりますが、ものづくりの分野が一番近いと思います。ものづくりの現場で起こっている現状としては、事業継承の問題が大きいと思います。私の仲間も2代目3代目がいる一方で、今の代で終わらせてしまう企業も少なからずある。事業継承が出来れば、経済の活性化にも寄与すると思います。2番目は雇用の問題です。人を採用したくてもできない中小企業が多くあるため、今後どのようにして優秀な人材を確保していくか、採用した人材を育成していくかを皆さんと考えながら足立区を盛り上げていけたらと思います。最後に地域の発展という部分では、足立区は製造業が多種多様であるということが特徴的だと思います。しかし、ものづくり分野では、墨田区や大田区にイメージをとられている気がするので、足立区のものづくり企業の魅力をよりPR・ブランディング等していければ若者が足立区で就職することにも繋がるのではないかと考えています。

## 中根会長

構造的な問題であり、特に人材に関する分野についてはこの活性化会議でも議論していければと思いました。

## 岡部委員

足立区しんきん協議会は区内の9信用金庫、55支店のネットワークを持って仕事をしていますが、共通認識としてやはり製造業が減っており、逆に飲食店を含むサービス業などの商業で若手の方が出てきている傾向が見られます。若手の事業者が出てくること自体は強みになりますが、創業後のフォローアップに力を入れた活動をすることで、活性化に繋がると考えています。また、それだけではなく、区役所の1Fには区内工芸品を飾ってありますが、足立区固有の製品やTASKの取り組み等も多くあるので、今後は工業製品のプレゼンスを高めていくことや、伝統工芸を維持する等の支援も重要であると考えています。

## 中根会長

川崎市にあるKSP（かながわサイエンスパーク）には富士通やNECと造っているインキュベーション施設がありました。設立当初はあまりうまくいっていませんでしたが、ある時から、個々の企業に対してきめ細かい支援をするようになり、もう一棟インキュベーション施設を建設する等した経緯もあります。やはり個々のきめ細かい支援が重要なポイントになるのかなと考えています。

## 入江委員

私は西新井駅前外国人向けの宿泊施設を運営していますが、毎月4,000人近く外国人がいらっしや、まちカフェ（レストラン）にも毎月2,800人程度のお客様がいらっしやいます。このうち9割が外国人となっていますが、そうした方々のレビューを見ていると、西新井は立地が悪いということが多く言われています。そうしたこともあり、西新井を観光地化するということに取り組んでいます。街の魅力を発掘することで、活性化することが重要かと思っています。私としては、商店街全体として取り組んでいくことが重要だと考えていますが、具体的には面としての街おこしを企画していきたいと考えています。また、まちカフェで宴会を開催した際に、周辺の

企業や病院の方と話す機会があり、情報発信する場がないといった問題点も多く聞かれました。そのため、まずは場づくりといった観点からも取組みが必要になってくるかと思います。

### 中根会長

かつてテレビ番組の紹介で、猿がいる宇都宮の居酒屋がソーシャルメディア等の情報によって外国人に知られ、わざわざ新幹線にのって宇都宮まで行くということが言われていました。これもある意味では情報発信で成功した事例でもあり、今後の検討課題になると思います。

### 渡井委員

私は足立区の千住で病院や福祉施設、保育施設等に食材を納める会社を運営しております。また、千住の足立市場協会の運営の理事もやっておりますが、もう一つ、足立区産の小松菜「あだち菜」という食材を使ったパスタを提案する等、足立区のイメージアップを目的としたNPO法人もやっております。まずはA3資料にあります、観光の部分で足立市場の記載もありますので、その点について申し上げますと、新しい足立市場の在り方も検討していかなければいけない時期になっています。今は2か月に1度、足立市場の日ということで、一般の方と交流を図っており、2時間で5,000の方が訪れます。今後10年という長いスパンで見たときに、足立区の行政からどうしていくべきか等のご意見もいただきたいと思います。例えば、東京都と足立区による共同運営による第三セクターのような運営方法なども考えられると思っています。当市場は荒川区や墨田区にも隣接しており、区外から稼ぎを得る格好の場所となると思っています。話がそれますが、平成24年から28年にかけて足立区に愛着や誇りを持っているという区民の割合が増加傾向にあるという報告がありましたが、これは素晴らしいことだと思います。私もあだち菜うどん、パスタを中心に区のイメージアップに貢献したいと思います。

### 中根会長

ありがとうございました。足立市場の在り方を抜本的に捉えなおす必要があるというご指摘でした。

### なかだ委員

大学院で都市史を専攻していたこともあり、歴史的なものに興味があります。また、ライターとして原稿を書く仕事もしていますが、取材の中で製造、工芸は台東区や墨田区、まちなみは谷根千、市場は築地を使っていて、あだち市場を使っていない飲食店が多いです。モノがあって便利な場所にあるのに、もったいないイメージがあります。一律同じように進化するのではなく、足立区がもともと持っているものを活かして、個性・アイデンティティーとして伸ばしていくのが近道ではないかと思います。

また、どこでも後継者問題は深刻ですが、一方でものづくりをしたいという若者も多くいると思います。文科系の若者や異業種、異分野の方など、家族ではなくても後を継げるようなマッチングをしていくことも大事だと思います。

足立区は文化度が低いイメージがあります。千住のイメージは改善していますが、文化度を上げて新たに住む人が誇りに思えるような街になったらいいなと思います。



## 中根会長

若い世代をどう巻き込んでいくかというご指摘でした。もっと若者を巻き込んだネットワークづくりも必要になってくるかと思います。区内では大学の集積も進んでいますので、区の働きかけも期待される場所だと思います。一方で私の大学の生徒を見ると、ほとんどの学生が就職できる状況にありますが、中小企業はやはり人気がなく、大手企業志向が強いという傾向も見られます。これからは中小企業のイメージアップも大事な部分だと思います。

## 鈴木又右衛門委員

個人的に人が集まるということが、経済を活性化させる重要なファクターだと思っています。昨年来、住みたいまちランキング穴場部門で北千住は都内1位となっており、マスコミで騒がれています。北千住特集のグルメ番組も報道されたり、北千住には追い風が吹いていると思います。実際いろいろな方に評価していただいている点については、物価が安いことや市場があること等、様々な要因があると思いますが、こうした要因を踏まえ、どのように街の活性化をしていくかを考えていくことが必要ではないでしょうか。例えば北千住や西新井はターミナルの機能もあり、人が集まる要因を持っています。

一方、足立区に対する悪いイメージは払しょくできていない部分があると思います。もちろん足立区は本当はそうではないと思っています。そのためにも、例えば地域的に人が集まる街をつくっていき、良い街にしていくためにもシンボリックなものを創ったりするなどの取組みも大事だと思います。

## 中根会長

人の集まる地域としていく必要性について伺いました。区としてはエリアデザインという方向性も持っているかと思いますが参考にさせていただきます。

## 近藤委員

私は千住で美濃紙業をやっておりますが、もともと出身は岐阜県的美濃市です。戦後、岐阜で美濃紙がダメになってしまったこともあり、そこから千住に来ています。また今では美濃紙が世界文化遺産となっていますが、世界から注文が来ており、製造が間に合わないことや後継者育成等の問題があって、市長が寄付をお願いに東京に来たりしていました。

先ほど足立区内の観光資源のお話がありましたが、これからは世界に発信していくことも期待されます。また、商工会議所という立場で産業面からお話しすると、今後区内では再開発が進んでいくと思います。そのうちほとんどが共同住宅等となっており、人口が増えてくるということで、その分消費も増えてくるわけですから良いことだと思います。実際、商業施設として、北千住エリアは特徴的で、飲食店等も素晴らしいところが多くあります。ただ一方で、大きな商業施設や、いろいろな研究ができるような本社機能を持つ企業が集積できるエリアや拠点等を造ることも重要だと考えています。都内では家賃が高いということもありますので、都心にある企業等を誘致し、足立区のメリットを活かした拠点施設とすることも重要だと考えています。最後にもう一点、都市計画について言うと、何十年も橋や道路を計画していて何もできないエリアがあるため、見直しをしつつ有効利用して活性化させていくことも重要だと思います。

## 中根会長

社会インフラに対するご指摘でした。なかなか区としては難しい部分ではありますが、今後検討していく必要がある部分だと思います。

## 小沢委員

私からは、足立ブランドに関するお話をさせていただきます。現状としましては、足立ブランドは製造業を中心に活動しています。参加企業は平均して創業50年くらい、戦後モノがない状況から続けていた事業者が今2代目に事業継承している状況です。今後はモノを必要としない時代になりつつありますが、IoT やロボット等のスーパーテクノロジーによって働き方や仕事のあり方が変わってくるのではないかと考えています。こうした技術によって、生活は間違いなく豊かになりますが、ものづくり産業が生き残っていくためには、モノを必要としなくなっていく時代のなかで、人が中心となったものづくりが重要だと考えています。そして大きな課題としては、先ほどもありましたが、中小企業の人気がないということがあります。中小企業は特徴的な技術を持っているという PR も必要だと考えていますが、そうした特殊な技術だけではない部分が今後は重要で、企業の紹介の仕方も変わっていくのではないかと考えています。若い人材を集めるためには企業の文化を伝えることが大事ではないでしょうか。最後に、中小企業の組織の中で完結するような、ものづくりを中心とした交流ではなく、社外での交流を楳にして事業を展開していくことが大変重要だと考えています。文化を上げていくことはとても大切だと思いますが、人間性を上げていくことが文化を上げていくことの近道だと思います。

## 中根会長

非常に重要なコメントでした。中小企業の働き方やイメージをどう変えていくかということでした。

## 宇佐美委員

農業を代表しましてお話をさせていただきます。現状では足立区でも農家数、農業面積は減りつつあります。相続の発生や後継者不足等の問題があります。私としてもどうすれば生き残っていけるだろうか、という点を考えていますが、一つ目が観光協会と連携して農地の大切さや食材を PR しています。また農地を一時避難できる場所として活用することも可能です。野菜を作るだけでなく、人の命を守ることもできるといったことも PR しています。また、学校給食を通じて足立区産の小松菜等の食材を子供たちに食べてもらったり、お年寄りに足立区産の野菜を食べてもらおうといった取組みも工夫を凝らしています。安心・安全な食材を提供するために、オリンピック・パラリンピックに向けて、応援団に対して食材を提供する等の取組みもスタートしています。足立区の小松菜は鉄分が多いことが有名ですが、そうした点も PR して皆さんに食べてもらおうという取組みも行っています。また、北千住に足立区の野菜を PR できるアンテナショップといったようなものがあれば、もっと良いと思いました。

## 中根会長

ありがとうございました。農業の新たな取組みをご紹介いただきました。  
福田委員、岡田委員、阿高委員、コメントいただけますでしょうか。

## 福田委員

ほぼ皆さまのお話でキーワードが出そろった気がします。公社ではちょうど中期経営プランを検討する中で、オリンピック・パラリンピック後の公社をどうしていくかを考えているところです。IoTの活用による生産性の向上でいうと、足立区には今野製作所のような先進的なところがあります。また、企業振興という観点から考えると、事業承継、人材育成、創業支援の3つはどうしてもトレンドとなっており、やはり重要な部分だと考えています。ちょうどIoTに関して言うと、墨田区における産学連携に関する取組みを発展させるための会合に出させていただきました。金融機関を含めた産・学・官・金でどう連携していくかを構想していました。足立区も5つの大学とどう付き合っていくかが切り口としてあると思います。

事業承継や人材育成に関しては、若者が多いところが足立区の強みだということでしたが、文化意識を高める、デザインといった視点も大事だと思います。台東区のデザイナーズビレッジのように、足立区でも若手の育成をして、地域連携をアピールしていくことも切り口かだと思います。そういうものから、創業支援に結びついていくということもあろうかと思います。

3つのキーワードに加え、2020年以降のレガシーをどう活用するか。私に取り組んでいる伝統工芸支援ですが、東京のオリジナリティをどう発信していくかが今や必然となっています。産業として、ビジネスとして確立していかないと、後を継ぐ方もいないし、職人さんも減っていきま。伝統工芸は観光やまちづくりと親和性が高いので、まちづくり、アンテナショップなどインバウンド効果をどう狙うか、あだち菜うどんなど海外の方の興味を組み合わせるイベントを起こしていくなど取り組む中で海外展開を考える必要があると思います。

海外展開というものの自体は、すごく広いので、区内の事業所にどういうニーズがあるのかについては、アンケートを通じて明確になっていくと思います。

あれもこれもと手を出すと、方向性が見えにくくなってしまうので、公社が色々と支援策を用意しているので、うまく利用してもらえればと思います。

足立区の協創という概念を今話した、事業承継や生産性の向上や創業支援などのところとどうリンクさせていくかがキーになると思います。

## 岡田副会長

足立区民は消費生活に関する相談をしていくということが多くあるという印象です。そうした相談に対してセンターとして啓発をしているところですが、今回のアンケート調査の結果には足立区民の消費者としての側面が見えるということで期待しております。区民がどういうことを望んでおり、どういう生活を送っているのかについて知ることができる画期的なものだと思っています。なので、返信率20パーセントではなく、70、80パーセントの回収率で頑張りたいと思います。後は、足立区民が区に対する愛着が高いということに加えて、安全・安心についても評価が上がってきているという点についても驚きでした。消費者問題に関しても、高齢者の問題に繋がりますので、見守り活動もしていますが、町会への加入率も上げることも重要だと思っています。また、大学が6つになるということで、大学生が区内に居住しているのか区外に住んでいるのかわからないところもありますので、区外の学生が足立区に対して持っているイメージに関する統計調査もあっても良いかとも思いました。私は足立区に住んでいませんが、長い間お世話になっておりますので、ぜひ今回の基本計画を良いものにしていければと思っています。

## 阿高副会長

学生がどのくらい足立区に住んでいるのか、ということですが、20パーセントくらいは他府県から来ていますので、足立区内に下宿している学生が多いと思います。隅田川を超えると家賃が安くなるのでむしろ北千住に住みたいというニーズが高いです。

3Dプリンターのおかげで、アイデアさえあればすぐに試作品を作れるようになりました。そして中国の工場で大量生産することもできるようになっています。こうした状況で、足立区でどのようにものづくりをしていくか、という点で言うと、区内事業者の技術は素晴らしいものがあります。ですから、ロボットに置き換えられないような要素技術を大事にすることも重要だと思っています。そうした点を活かしながらスクラムを組み、製品を開発していくことが大事だと思いました。そして最近ではモノを所有することではなく、使用することの価値を求められる部分もありますので、このような点も勘案することが大事だと考えています。

また、日本はアメリカのロッキード社の部品の7割を作っているということです。日本は部品工場等と言われていますが、そのアメリカでは、日本の自動車企業に対抗して、2025年以降、ガソリン車を規制するという方向性もあります。そして日本の自動車産業は組織が大きく小回りが利いていませんが、ホンダやトヨタも電気自動車の分野に進出し始めています。電気自動車の高速充電設備等のインフラについても考えていくことも大事だと思っています。大学として皆さまの役に立つようなことを進めていきたいと考えています。

## 中根会長

ありがとうございます。委員の皆さまから有益なご意見を頂戴しましたが、これを受けて事務局としてまとめ上げていくこととなります。短期的に効果が出るものと長期的に効果が出るもの、コストの大きさ等、多種多様ではありますが、事務局には富士通総研の方々もいらっしゃいますので、何とか骨子へと反映していただければと思います。

最後に報告事項をお願いします。

## 依田産業振興課長

産業振興課長の依田と申します。足立ブランドは、今年で10年目を迎えております。足立区内にある製造業の中で、優れた技術をお持ちの事業所を認定させていただく制度です。立候補していただいた企業を認定させていただいております。平成28年度は12社から新規認定の応募をいただき、書類審査とプレゼンテーションを行っていただき、6社が新規の認定となりました。合計で50社になる予定でしたが、2社が辞退しましたので、合計で48社となっています。

足立ブランドに認定されることで、区が関係するイベントで優先的に出展することができます。また、東京ビックサイトで開催されるギフトショーや機械要素展等にも出展いただけますので、新たなビジネスチャンスに繋がるといったメリットがあります。

2頁の上の6社が新規認定企業です。各社の優れた技術について縷々、記載しております。

下の段に記載されている企業の方々は再認定、再々認定の企業です。

新規認定の6社についてはカラー刷りの資料をお付けしていますので、後ほどお目通しいただければと思います。

## 渡井委員

足立ブランドの工業製品以外の分野、食品等に関しての今後の計画はありますか。

#### **依田産業振興課長**

食品についても取組みが必要だと考えております。現在、議会審議中ですが、29年度に予算計上させていただいているものでは、商店街エリアに関わらず、キラッと輝く個店を紹介していく取り組みをやっていきたいと思っています。

#### **茂木足立区観光交流協会事務局長**

観光交流協会の茂木と申します。4月のイベントについて簡単にご紹介させていただきます。まず、4月1日に舎人公園千本桜まつりを開催致します。各企業の物産展や、陸上競技場で様々なスポーツイベント等を開催します。続いて花めぐりバスについては、桜が満開の時期に併せてコースを設けて桜の名所を回る3つのバスコースを設定しています。2日間乗り放題で乗車チケットが300円とお得になっています。また、最後に3月25日から4月2日まで桜のライトアップがあり、舎人公園の東にある桜の木120本をライトアップする予定です。飲食店も出店予定ですので、こちらもご来場のほどよろしく申し上げます。

#### **中根会長**

その他、何かご意見ありますでしょうか。なければここで第2回経済活性化会議を閉会させていただきます。

#### **島田産業政策課長**

中根会長、進行をありがとうございました。それでは、次回は6月の中旬ごろに骨子案について議論する場をもうけさせていただければと思います。これを持ちまして閉会させていただきます。本日は長い時間ありがとうございました。

以上